



# スイッチ プロファイルの設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [スイッチ プロファイルに関する情報, 2 ページ](#)
- [スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モード, 2 ページ](#)
- [設定の確認, 3 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードおよびダウングレード, 4 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの前提条件, 5 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項, 5 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの設定, 7 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルへのスイッチの追加, 8 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更, 10 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルのインポート, 12 ページ](#)
- [vPC トポロジでの設定のインポート, 15 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの確認, 15 ページ](#)
- [ピア スイッチの分離, 16 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの削除, 16 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルからのスイッチの削除, 17 ページ](#)
- [スイッチ プロファイル バッファの表示, 19 ページ](#)
- [スイッチのリポート後のコンフィギュレーションの同期化, 20 ページ](#)
- [スイッチ プロファイル設定の show コマンド, 20 ページ](#)
- [スイッチ プロファイルの設定例, 21 ページ](#)

## スイッチ プロファイルに関する情報

複数のアプリケーションは、ネットワーク内のCisco Nexus シリーズスイッチ間で整合性のある設定が必要です。たとえば、仮想ポート チャネル (vPC) を使用する場合、同じ設定にする必要があります。設定の不一致により、エラーや設定ミスが発生し、サービスが中断されることがあります。

設定の同期 (config-sync) 機能では、1つのスイッチ プロファイルを設定し、設定を自動的にピアスイッチに同期させることができます。スイッチ プロファイルには、次の利点があります。

- 設定をスイッチ間で同期できます。
- 2台のスイッチ間で接続が確立されると、設定がマージされます。
- 同期される設定を正確に制御できます。
- マージおよび相互排除チェックを通じて、ピア全体の設定の一貫性を保証します。
- 確認とコミットのセマンティックが提供されます。
- ポート プロファイル コンフィギュレーションの設定と同期をサポートします。
- 既存の vPC 設定をスイッチ プロファイルに移行するためのインポート コマンドが提供されます。

## スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モード

スイッチ プロファイル機能には、次のコンフィギュレーション モードがあります。

- コンフィギュレーション同期モード
- スイッチ プロファイル モード
- スイッチ プロファイル インポート モード

### コンフィギュレーション同期モード

コンフィギュレーション同期モード (config-sync) では、マスターとして使用するローカルスイッチ上で **config sync** コマンドを使用して、スイッチ プロファイルを作成できます。プロファイルの作成後、同期するピアスイッチで **config sync** コマンドを入力できます。

### スイッチ プロファイル モード

スイッチ プロファイルモードでは、後でピアスイッチと同期化されるスイッチ プロファイルに、サポートされているコンフィギュレーション コマンドを追加できます。スイッチ プロファイルモードで入力したコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されます。

### スイッチ プロファイル インポート モード

以前のリリースからアップグレードするとき、スイッチ プロファイルに、サポートされている実行コンフィギュレーション コマンドをコピーするため、**import** コマンドを入力できます。**import** コマンドを入力した後、スイッチ プロファイル モード (**config-sync-sp**) は、スイッチ プロファイル インポート モード (**config-sync-sp-import**) に変わります。スイッチ プロファイル インポート モードでは、既存のスイッチ 設定を実行コンフィギュレーションからインポートし、どのコマンドをスイッチ プロファイルに含めるかを指定できます。

異なるトポロジで、スイッチ プロファイルに含まれる異なるコマンドが必要になるため、**import** コマンド モードでは、特定のトポロジに合うようにインポートされたコマンドを変更できます。たとえば、デュアルホーム ファブリック エクステンダ (FEX) トポロジでは、大部分の設定が同期している必要があります。他の vPC トポロジでは、同期する必要がある設定は、かなり小さいコマンドのセットである可能性があります。

インポート プロセスを完了し、スイッチ プロファイルにコンフィギュレーションを移動するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。インポート プロセス中の設定変更がサポートされないため、新しいコマンドを **commit** コマンドを入力する前に追加すると、スイッチ プロファイルが保存されないまま残り、スイッチ はスイッチ プロファイル インポート モードのままになります。追加したコマンドを削除するか、またはインポートを中断します。未保存のコンフィギュレーションは、プロセスが中断されると失われます。インポートの完了後、スイッチ プロファイルに新しいコマンドを追加できます。

## 設定の確認

2 種類の設定の有効性検査により、2 種類のスイッチ プロファイルの障害を識別できます。

- 相互排除チェック
- マージチェック

### 相互排除チェック

スイッチ プロファイルに含まれる設定を上書きする可能性を減らすため、相互排除 (**mutex**) は、スイッチ プロファイルのコマンドを、ローカル スイッチ上に存在するコマンドと、ピア スイッチ上のコマンドに対してチェックします。あるスイッチ プロファイルに含まれるコマンドをそのスイッチ プロファイルの外部やピア スイッチで設定することはできません。この要件は、既存のコマンドが意図せず上書きされる可能性を減らします。

**mutex** チェックは、コミット プロセスの一部として、ピア スイッチに到達できる場合は両方のスイッチで行われ、そうでない場合はローカルで実行されます。設定端末から行われた設定変更は、ローカル スイッチだけで発生します。

**mutex** チェックがエラーを識別すると、**mutex** の障害として報告され、手動で修正する必要があります。

次の例外は相互排除ポリシーに適用されます。

- インターフェイス設定：Release 5.1(3) よりも前のリリースでは、競合がない限り、インターフェイス設定の一部がスイッチプロファイルに存在し、一部が実行コンフィギュレーションに存在できました。Release 5.1(3) 以降では、ポートチャネルインターフェイスは、スイッチプロファイルモードまたはグローバルコンフィギュレーションモードのいずれかで完全に設定する必要があります。



(注) 一部のポートチャネルサブコマンドは、スイッチプロファイルモードで設定できません。これらのコマンドは、ポートチャネルがスイッチプロファイルモードで作成および設定されている場合でも、グローバルコンフィギュレーションモードで設定できます。

たとえば、次のコマンドはグローバルコンフィギュレーションモードでしか設定できません。

```
switchport private-vlan association trunk primary-vlan secondary-vlan
```

- shutdown/no shutdown
- システム QoS

### マージチェック

マージチェックは設定を受信するピアスイッチで行われます。マージチェックによって、受信したコンフィギュレーションが受信側スイッチ上の既存のスイッチプロファイルコンフィギュレーションと競合しないことが確認されます。マージチェックは、マージまたはコミットプロセスで実行されます。マージが失敗した場合はエラーが報告され、手動で修正する必要があります。

いずれかまたは両方のスイッチがリロードされ、コンフィギュレーションが最初に同期されると、マージチェックは、スイッチプロファイルの設定が両方のスイッチで同じであることを確認します。スイッチプロファイルの違いは、マージ障害として報告され、手動で修正する必要があります。

## スイッチプロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードおよびダウングレード

以前のリリースにダウングレードすると、以前のリリースではサポートされていない既存のスイッチプロファイルを削除するように要求されます。

以前のリリースからアップグレードする場合、スイッチプロファイルに一部の実行コンフィギュレーションコマンドを移動することを選択できます。**import** コマンドでは、関連するスイッチプロファイルコマンドをインポートできます。アップグレードは、バッファされた設定（コミットされていない）がある場合に実行できます。ただし、コミットされていない設定は失われます。

スイッチプロファイルに含まれるスイッチの1つで、In Service Software Upgrade (ISSU) を実行すると、ピアが到達不能であるため、設定の同期は実行できません。

## スイッチ プロファイルの前提条件

スイッチ プロファイルには次の前提条件があります。

- **efs ipv4 distribute** コマンドを入力して、両方のスイッチで **mgmt0** 上の IP を介した Cisco Fabric Series (CFSIP) 配布をイネーブルにする必要があります。
- **config sync** コマンドと **switch-profile** コマンドを入力して、両方のピア スイッチで同じ名前を持つスイッチ プロファイルを設定する必要があります。
- **sync-peers destination** コマンドを入力して、各スイッチをピア スイッチとして設定します

## スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項

スイッチ プロファイルを設定する場合は、次の注意事項および制約事項を考慮してください。

- **mgmt0** インターフェイスを使用してのみ設定同期化をイネーブルにできます。
- 設定の同期は、**mgmt0** インターフェイスを使用して実行され、管理 SVI を使用して実行できません。
- 同じスイッチ プロファイル名で同期されたピアを設定する必要があります。
- スイッチ プロファイル設定で使用可能なコマンドを、設定スイッチ プロファイル (**config-sync-sp**) モードで設定できます。
- サポートされているスイッチ プロファイル コマンドは、**vPC** コマンドに関連します。FCoE コマンドはサポートされません。
- 1つのスイッチ プロファイルセッションが一度に進行できます。別のセッションの開始を試みると失敗します。
- スイッチ プロファイルセッションの進行中は、コンフィギュレーション端末モードから実行されたサポートされているコマンドの変更はブロックされます。スイッチ プロファイルセッションが進行しているときは、コンフィギュレーション端末モードからサポートされていないコマンドの変更を行わないでください。
- **commit** コマンドを入力し、ピアスイッチに到達可能である場合、設定は、両方のピアスイッチに適用されるか、いずれのスイッチにも適用されません。コミットの障害が発生した場合、コマンドは、スイッチプロファイルバッファに残ります。その場合、必要な修正をし、コミットを再実行します。
- シスコでは、インターフェイスコンフィギュレーションが設定同期機能を使用して同期される、すべての Generic Expansion Module (GEM) モジュールおよび Cisco Nexus ファブリックエクステンダ モジュールで事前プロビジョニングをイネーブルにすることを推奨します。ファブリックエクステンダが1台のスイッチでオンラインでない可能性があり、その設定が変更され、他のスイッチで同期される、Cisco Nexus ファブリックエクステンダアクティブ/アクティブトポロジでは、次の注意事項に従ってください。このシナリオでは、事前プロ

ビジョニングをイネーブルにしない場合、コミットに失敗し、設定が両方のスイッチでロールバックされます。

- ポート チャンネルがスイッチ プロファイル モードを使用して設定されている場合、グローバル コンフィギュレーション (config 端末) モードを使用して設定できません。



(注) 一部のポート チャンネル サブコマンドは、スイッチ プロファイル モードで設定できません。これらのコマンドは、ポート チャンネルがスイッチ プロファイル モードで作成および設定されている場合でも、グローバル コンフィギュレーション モードで設定できます。

たとえば、次のコマンドはグローバル コンフィギュレーション モードでしか設定できません。

**switchport private-vlan association trunk *primary-vlan secondary-vlan***

- **shutdown** および **no shutdown** はグローバル コンフィギュレーション モードまたはスイッチ プロファイル モードで設定できます。
- ポート チャンネルがグローバル コンフィギュレーション モードで作成されている場合、メンバ インターフェイスを含むチャンネル グループも、グローバル コンフィギュレーション モードを使用して作成する必要があります。
- スイッチ プロファイル モードで設定されたポート チャンネルでは、スイッチ プロファイルの内側と外側の両方にメンバを持つ場合があります。
- スイッチ プロファイルにメンバ インターフェイスをインポートする場合、メンバ インターフェイスを含むポート チャンネルもスイッチ プロファイル内に存在する必要があります。

#### リポート、接続損失、または障害後の同期化に関する注意事項

- **vPC** ピア リンクの障害後の設定の同期化：ピア リンクに障害が発生したときに両方のスイッチが動作している場合、セカンダリ スイッチが vPC ポートをシャットダウンします。ファブリック エクステンダ A/A トポロジでは、A/A ファブリック エクステンダがセカンダリ スイッチから切断されます。プライマリ スイッチでスイッチ プロファイルを使用して設定が変更された場合、A/A ファブリック エクステンダが事前にプロビジョニングされていない限り、設定はセカンダリ スイッチで受け入れられません。設定の同期機能を使用する場合、すべての A/A ファブリック エクステンダを事前プロビジョニングすることを推奨します。
- **mgmt0** インターフェイスの接続が失われた後の設定の同期化：**mgmt0** インターフェイスの接続が失われ、設定変更が必要な場合は、スイッチ プロファイルを使用して、両方のスイッチの設定変更を適用します。**mgmt0** インターフェイスへの接続が復元されると、両方のスイッチが自動的に同期されます。

設定変更を 1 台のスイッチだけで実行する場合、マージは、**mgmt0** インターフェイスが起動し、設定が他のスイッチに適用されると実行されます。

- **ISSU** が 1 台のスイッチで実行され、設定変更がピア スイッチで行われる場合の設定の同期化：vPC トポロジでは、ピア スイッチの設定変更は、ISSU が他のスイッチで実行される場

合は許可されません。vPCのないトポロジでは、設定変更は許可され、アップグレードが完了すると、ISSU を実行しているスイッチは新しい設定を同期します。

## スイッチ プロファイルの設定

スイッチ プロファイルは作成および設定できます。コンフィギュレーション同期モード (config-sync) で、**switch-profile name** コマンドを入力します。

### はじめる前に

各スイッチに同じ名前を持つスイッチ プロファイルを作成し、スイッチを互いにピアとして設定する必要があります。同じアクティブ スイッチ プロファイルを持つスイッチ間で接続が確立されると、スイッチ プロファイルが同期されます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>cfs ipv4 distribute</b>  例： switch(config)# cfs ipv4 distribute switch(config)#	ピア スイッチ間の CFS 配信をイネーブルにします。
ステップ 3	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 4	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチ プロファイルを設定し、スイッチ プロファイルの名前を設定し、スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	<b>sync-peers destination IP-address</b>  例： switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	ピア スイッチを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>show switch-profile name status</b>  例： switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status switch(config-sync-sp)#	(任意) ローカル スイッチのスイッチ プロファイルおよびピア スイッチ情報を表示します。
ステップ 7	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モードを終了し、EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、スイッチ プロファイルを設定し、スイッチ プロファイルのステータスを表示する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status
Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010
End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.1.1.1
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```

## スイッチ プロファイルへのスイッチの追加

スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モードで **sync-peers destination destination IP** コマンドを入力し、スイッチ プロファイルにスイッチを追加します。



スイッチを追加する場合は、次の注意事項に従ってください。

- スイッチは IP アドレスで識別されます。
- 宛先 IP は同期するスイッチの IP アドレスです。
- コミットされたスイッチ プロファイルは、ピア スイッチでも設定の同期が設定されている場合に、新しく追加されたピアと（オンラインの場合）同期されます。  
 スイッチ プロファイルにメンバインターフェイスをインポートする場合、メンバインターフェイスを含むポート チャネルもスイッチ プロファイル内に存在する必要があります。

### はじめる前に

ローカルスイッチでスイッチ プロファイルを作成した後、同期に含まれる 2 番目のスイッチを追加する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチ プロファイルを設定し、スイッチ プロファイルの名前を設定し、スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>sync-peers destination destination IP</b>  例： switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	スイッチ プロファイルにスイッチを追加します。
ステップ 4	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	<b>show switch-profile peer</b>  例： switch# show switch-profile peer	(任意) スイッチ プロファイルのピアの設定を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b>  例： <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更

スイッチプロファイルのコマンドを変更するには、変更されたコマンドをスイッチプロファイルに追加し、**commit** コマンドを入力してコマンドを適用し、ピアスイッチが到達可能な場合にスイッチプロファイルを同期します。

スイッチプロファイルコマンドを追加または変更するときは、次の注意事項に従ってください。

- 追加または変更されたコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されません。
- コマンドは、バッファリングされた順序で実行されます。特定のコマンドに順序の依存関係がある場合（たとえば、QoS ポリシーは適用前に定義する必要があります）、その順序を維持する必要があります。そうしないとコミットに失敗する可能性があります。**show switch-profile name buffer** コマンド、**buffer-delete** コマンド、**buffer-move** コマンドなどのユーティリティコマンドを使用して、バッファを変更し、入力済みのコマンドの順序を修正できます。

### はじめる前に

ローカルおよびピアスイッチでスイッチプロファイルを設定したら、スイッチプロファイルにサポートされているコマンドを追加し、コミットする必要があります。コマンドは、**commit** コマンドを入力するまでスイッチプロファイルバッファに追加されます。**commit** コマンドは次を行います。

- **mutex** チェックとマージチェックを起動し、同期を確認します。
- ロールバック インフラストラクチャでチェックポイントを作成します。
- ローカルスイッチおよびピアスイッチのコンフィギュレーションを適用します。
- スイッチプロファイル内の任意のスイッチでアプリケーション障害がある場合は、すべてのスイッチでロールバックを実行します。
- チェックポイントを削除します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチ プロファイルを設定し、スイッチ プロファイルの名前を設定し、スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>command argument</b>  例： switch(config-sync-sp)# interface Port-channel100 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100	スイッチ プロファイルにコマンドを追加します。
ステップ 4	<b>show switch-profile name buffer</b>  例： switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc buffer switch(config-sync-sp)#	(任意) スイッチ プロファイルバッファ内のコンフィギュレーション コマンドを表示します。
ステップ 5	<b>verify</b>  例： switch(config-sync-sp)# verify	スイッチ プロファイル バッファ内のコマンドを確認します。
ステップ 6	<b>commit</b>  例： switch(config-sync-sp)# commit	スイッチ プロファイルにコマンドを保存し、ピア スイッチと設定を同期します。
ステップ 7	<b>show switch-profile name status</b>  例： switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status switch(config-sync-sp)#	(任意) ローカル スイッチのスイッチ プロファイルのステータスとピア スイッチのステータスを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

次に、スイッチ プロファイルを作成し、ピア スイッチを設定し、スイッチ プロファイルにコマンドを追加する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# interface port-channel100
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100
switch(config-sync-sp)# verify
switch(config-sync-sp)# commit
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```

次に、定義されたスイッチ プロファイルがある既存のコンフィギュレーションの例を示します。2 番目の例は、スイッチ プロファイルに変更されたコマンドを追加することによって、スイッチ プロファイル コマンドを変更する方法を示します。

```
switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 1-10

switch# config sync
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 5-10
switch(config-sync-sp-if)# commit

switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 5-10
```

## スイッチ プロファイルのインポート

インポートするコマンドのセットに基づいてスイッチ プロファイルをインポートできます。コンフィギュレーション 端末モードを使用して、次の作業を行います。

- 選択したコマンドをスイッチ プロファイルに追加する。
- インターフェイスに指定された、サポートされているコマンドを追加する。
- サポートされているシステムレベル コマンドを追加する。
- サポートされるシステムレベル コマンドを追加する（物理インターフェイス コマンドを除く）。

スイッチプロファイルにコマンドをインポートする場合、スイッチプロファイルバッファが空である必要があります。

新しいコマンドがインポート中に追加されると、スイッチプロファイルが保存されていないままになり、スイッチはスイッチプロファイルインポートモードのままになります。 **abort** コマンドを入力してインポートを停止します。 スイッチ プロファイルのインポートの詳細については、「スイッチ プロファイルインポート モード」の項を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>config sync</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	<p>コンフィギュレーション同期モードを開始します。</p>
ステップ 2	<p><b>switch-profile name</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#</pre>	<p>スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。</p>
ステップ 3	<p><b>import {interface port/slot   running-config [exclude interface ethernet]}</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-sync-sp)# import ethernet 1/2 switch(config-sync-sp-import)#</pre>	<p>インポートするコマンドを識別し、スイッチプロファイルインポートモードを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;CR&gt; : 選択したコマンドを追加します。</li> <li>• <b>interface</b> : 指定したインターフェイスのサポートされるコマンドを追加します。</li> <li>• <b>running-config</b> : サポートされるシステムレベル コマンドを追加します。</li> <li>• <b>running-config exclude interface ethernet</b> : 物理インターフェイスコマンドを除く、サポートされるシステムレベルコマンドを追加します。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>commit</b>  例： switch(config-sync-sp-import)# commit	コマンドをインポートし、スイッチプロファイルにコマンドを保存します。
ステップ 5	<b>abort</b>  例： switch(config-sync-sp-import)# abort	(任意) インポート プロセスを中止します。
ステップ 6	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイルインポートモードを終了します。
ステップ 7	<b>show switch-profile</b>  例： switch# show switch-profile	(任意) スイッチプロファイルコンフィギュレーションを表示します。
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

次に、sp というスイッチ プロファイルに、イーサネット インターフェイス コマンドを除く、サポートされるシステムレベル コマンドをインポートする例を示します。

```
switch(config-vlan)# conf sync
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----

switch(config-sync-sp)# import running-config exclude interface ethernet
switch(config-sync-sp-import)#
switch(config-sync-sp-import)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----
3      vlan 100-299
4      vlan 300
4.1    state suspend
5      vlan 301-345
6      interface port-channel100
6.1    spanning-tree port type network
7      interface port-channel105
```

```
switch(config-sync-sp-import)#
```

## vPC トポロジでの設定のインポート

2 スイッチ vPC トポロジで設定をインポートできます。



(注) 次の手順の詳細については、この章の該当する項を参照してください。

- 1 両方のスイッチで、同じ名前を持つスイッチプロファイルを設定します。
- 2 両方のスイッチに設定を個別にインポートします。



(注) 両方のスイッチで、スイッチプロファイルに移動された設定が同じであることを確認します。同じでない場合、マージチェックの障害が発生する場合があります。

- 3 `sync-peer destination` コマンドを入力してスイッチを設定します。
- 4 適切な `show` コマンドを入力して、スイッチプロファイルが同一であることを確認します。

## スイッチプロファイルのコマンドの確認

スイッチプロファイルモードで `verify` コマンドを入力し、スイッチプロファイルに含まれるコマンドを確認できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例 : <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例 : <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>verify</b>  例 : <pre>switch(config-sync-sp)# verify</pre>	スイッチプロファイルバッファ内のコマンドを確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## ピアスイッチの分離

スイッチプロファイルを変更するためにピアスイッチを分離できます。このプロセスは、設定の同期をブロックする場合、または設定をデバッグするときに使用できます。

ピアスイッチを分離するには、スイッチプロファイルからスイッチを削除し、スイッチプロファイルにピアスイッチを追加する必要があります。



(注) 次の手順の詳細については、この章の該当する項を参照してください。

一時的にピアスイッチを分離するには、次の手順を実行します。

- 1 スイッチプロファイルからピアスイッチを削除します。
- 2 スイッチプロファイルを変更して、変更をコミットします。
- 3 debug コマンドを入力します。
- 4 手順2でスイッチプロファイル対して行った変更を元に戻し、コミットします。
- 5 スイッチプロファイルにピアスイッチを追加します。

## スイッチプロファイルの削除

all-config または local-config オプションを選択してスイッチプロファイルを削除できます。

- **all-config** : 両方のピアスイッチでスイッチプロファイルを削除します（両方が到達可能な場合）。このオプションを選択し、ピアの1つが到達不能である場合、ローカルスイッチプロファイルだけが削除されます。all-config オプションは両方のピアスイッチでスイッチプロファイルを完全に削除します。
- **local-config** : ローカルスイッチのみのスイッチプロファイルを削除します。



## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>no switch-profile name {all-config   local-config   profile-only}</b>  例： switch(config-sync)# no switch-profile abc local-config switch(config-sync-sp)#	次の手順に従って、スイッチ プロファイルを削除します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all-config</b> : ローカル スイッチおよびピア スイッチのスイッチ プロファイルを削除します。ピア スイッチが到達可能でない場合は、ローカル スイッチ プロファイルだけが削除されます。</li> <li>• <b>local-config</b> : スイッチ プロファイルおよびローカル コンフィギュレーションを削除します。</li> <li>• <b>profile-only</b> : ローカル設定を行わなくても、スイッチ プロファイルを削除します。</li> </ul>
ステップ 3	<b>copy switch-profile-config</b>  例： switch (config-sync-sp)# copy switch-profile-config bootflash: switch (config-sync-sp)#	(任意)
ステップ 4	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	コンフィギュレーション同期モードを終了します。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイルからのスイッチの削除

スイッチ プロファイルからスイッチを削除できます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b>  例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b>  例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>no sync-peers destination destination IP</b>  例： switch(config-sync-sp)# no sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルから指定のスイッチを削除します。
ステップ 4	<b>exit</b>  例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>show switch-profile</b>  例： switch# show switch-profile	(任意) スイッチプロファイル コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b>  例： switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイル バッファの表示

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure sync</b>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch(config-sync) # <b>switch-profile profile-name</b>	指定されたスイッチ プロファイルに対するスイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-sync-sp) # <b>show switch-profile profile-name buffer</b>	指定されたインターフェイスに対するインターフェイス スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。

次に、**sp** という名前のサービス プロファイルのスイッチ プロファイル バッファの表示例を示します。

```
switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1      vlan 101
1.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3      interface Ethernet1/2
3.1    switchport mode trunk
3.2    switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp)# buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1      interface Ethernet1/2
1.1    switchport mode trunk
1.2    switchport trunk allowed vlan 101
2      vlan 101
2.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp)#
```

# スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化

スイッチ プロファイルを使用してピア スイッチで新しい設定をコミット中に Cisco Nexus シリーズスイッチがリブートする場合、リロード後にピアスイッチを同期するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 リブート中にピア スイッチ上で変更された設定を再適用します。
  - ステップ 2 **commit** コマンドを入力します。
  - ステップ 3 設定が正しく適用されており、両方のピアが同期されていることを確認します。
- 

## スイッチ プロファイル設定の show コマンド

次の **show** コマンドは、スイッチ プロファイルに関する情報を表示します。

コマンド	目的
<b>show switch-profile name</b>	スイッチ プロファイル中のコマンドを表示します。
<b>show switch-profile name buffer</b>	スイッチ プロファイル中のコミットされていないコマンド、移動されたコマンド、削除されたコマンドを表示します。
<b>show switch-profile name peer IP-address</b>	ピア スイッチの同期ステータスが表示されます。
<b>show switch-profile name session-history</b>	最後の 20 のスイッチ プロファイル セッションのステータスを表示します。
<b>show switch-profile name status</b>	ピア スイッチのコンフィギュレーション同期ステータスを表示します。
<b>show running-config expand-port-profile</b>	ポート プロファイルについての詳細が表示されます。
<b>show running-config exclude-provision</b>	オフラインで事前プロビジョニングされた非表示のインターフェイスの設定を表示します。
<b>show running-config switch-profile</b>	ローカルスイッチのスイッチ プロファイルの実行コンフィギュレーションを表示します。

コマンド	目的
<b>show startup-config switch-profile</b>	ローカルスイッチのスイッチプロファイルのスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

これらのコマンドの出力フィールドの詳細については、『Cisco Nexus 5000 Series Command Reference』を参照してください。

## スイッチ プロファイルの設定例

### ローカルおよびピア スイッチでのスイッチ プロファイルの作成例

次に、ローカルおよびピア スイッチで正常にスイッチ プロファイル設定を作成する例を示します。これには QoS ポリシー（vPC ピアリンクおよびスイッチ プロファイル中の vPC）の設定が含まれます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ローカルおよびピア スイッチで CFSvIP 配信をイネーブルにします。  例： switch# <b>configuration terminal</b> switch(config)# <b>cfs ipv4 distribute</b>	
ステップ 2	ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを作成します。  例： switch(config-sync)# <b>switch-profile abc</b> switch(config-sync-sp)# <b>sync-peers destination 10.1.1.1</b>	
ステップ 3	スイッチ プロファイルが、ローカルおよびピア スイッチで同じであることを確認します。  例： switch(config-sync-sp)# <b>show switch-profile abc status</b>  Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010 End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010  Profile-Revision: 1 Session-type: Initial-Exchange Peer-triggered: Yes Profile-status: Sync Success  Local information: ----- Status: Commit Success Error(s):	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Peer information: ----- IP-address: 10.1.1.1 Sync-status: In Sync. Status: Commit Success Error(s):</pre>	
ステップ 4	<p>ローカルスイッチでスイッチプロファイルにコンフィギュレーションコマンドを追加します。コマンドがコミットされたときに、コマンドがピアスイッチに適用されます。</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-sync-sp)# class-map type qos c1 switch(config-sync-sp-cmap-qos)# match cos 2 switch(config-sync-sp-cmap-qos)# class-map type qos c2 switch(config-sync-sp-cmap-qos)# match cos 5 switch(config-sync-sp-cmap-qos)# policy-map type qos p1 switch(config-sync-sp-pmap-qos)# class c1 switch(config-sync-sp-pmap-c-qos)# set qos-group 2 switch(config-sync-sp-pmap-c-qos)# class c2 switch(config-sync-sp-pmap-c-qos)# set qos-group 3 switch(config-sync-sp-pmap-c-qos)# system qos switch(config-sync-sp-sys-qos)# service-policy type qos input p1 switch(config-sync-sp-sys-qos)# vlan 1-50 switch(config-sync-sp-vlan)# interface port-channel 100 switch(config-sync-sp-if)# vpc peer-link switch(config-sync-sp-if)# switchport mode trunk switch(config-sync-sp-if)# interface port-channel 10 switch(config-sync-sp-if)# vpc 1 switch(config-sync-sp-if)# switchport mode trunk switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 1, 10-50</pre>	
ステップ 5	<p>バッファリングされたコマンドを表示します。</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-sync-sp-if)# show switch-profile switch-profile buffer ----- Seq-no  Command ----- 1      class-map type qos match-all c1 1.1    match cos 2 2      class-map type qos match-all c2 2.1    match cos 5 3      policy-map type qos p1 3.1    class c1 3.1.1  set qos-group 2 3.2    class c2 3.2.1  set qos-group 3 4      system qos 4.1    service-policy type qos input p1 5      vlan 2-50 6      interface port-channel100 6.1    vpc peer-link 6.2    switchport mode trunk 7      interface port-channel10 7.1    vpc 1</pre>	

	コマンドまたはアクション	目的
	7.2      switchport mode trunk 7.3      switchport trunk allowed vlan 1, 10-50	
ステップ6	<p>スイッチ プロファイルのコマンドを検証します。</p> <p>例： switch(config-sync-sp-if)# <b>verify</b> Verification Successful</p>	
ステップ7	<p>スイッチ プロファイルにコマンドを適用し、ローカルとピア スイッチ間の設定を同期させます。</p> <p>例： switch(config-sync-sp)# <b>commit</b> Commit Successful switch(config-sync)#</p>	

## 同期ステータスの確認例

次に、ローカルとピア スイッチ間の同期ステータスを確認する例を示します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<p><b>show switch-profile switch-profile status</b> コマンドを入力します。</p> <p>例： switch(config-sync)# <b>show switch-profile switch-profile status</b></p> <pre>Start-time: 804935 usecs after Mon Aug 23 06:41:10 2010 End-time: 956631 usecs after Mon Aug 23 06:41:20 2010  Profile-Revision: 2 Session-type: Commit Peer-triggered: No Profile-status: Sync Success  Local information: ----- Status: Commit Success Error(s):  Peer information: ----- IP-address: 10.1.1.1 Sync-status: In Sync. Status: Commit Success Error(s):  switch(config-sync)#</pre>	

## 実行コンフィギュレーションの表示

次に、ローカルスイッチでスイッチプロファイルの実行コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# configure sync
switch(config-sync)# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.1.1.1
  class-map type qos match-all c1
    match cos 2
  class-map type qos match-all c2
    match cos 5
  policy-map type qos p1
    class c1
      set qos-group 2
    class c2
      set qos-group 3
  system qos
    service-policy type qos input p1
  vlan 2-50

interface port-channel10
  switchport mode trunk
  vpc 1
  switchport trunk allowed vlan 1,10-50

interface port-channel100
  switchport mode trunk
  vpc peer-link
switch(config-sync)#
```

## ローカルスイッチとピアスイッチ間のスイッチ プロファイルの同期の表示

次に、2 台のピアスイッチの同期ステータスを表示する例を示します。

```
switch1# show switch-profile sp status

Start-time: 491815 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010
End-time: 449475 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.52
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch1#
```



```
switch2# show switch-profile sp status

Start-time: 503194 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010
End-time: 532989 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.51
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch2#
```

## ローカルスイッチとピアスイッチでの確認とコミットの表示

次に、ローカルスイッチおよびピアスイッチで正常に確認とコミットを設定する例を示します。

```
switch1# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch1(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch1(config-sync-sp)# interface ethernet1/1
switch1(config-sync-sp-if)# description foo
switch1(config-sync-sp-if)# verify
Verification Successful
switch1(config-sync-sp)# commit
Commit Successful
switch1(config-sync)# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.52
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch1(config-sync)# show switch-profile sp status

Start-time: 171513 usecs after Wed Aug 11 17:51:28 2010
End-time: 676451 usecs after Wed Aug 11 17:51:43 2010

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.52
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch1(config-sync)#
```

```

switch2# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.51
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch2# show switch-profile sp status

Start-time: 265716 usecs after Wed Aug 11 16:51:28 2010
End-time: 734702 usecs after Wed Aug 11 16:51:43 2010

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.51
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch2#

```

## 同期の成功と失敗の例

次に、ピアスイッチでのスイッチプロファイルの同期の成功例を示します。

```

switch# show switch-profile abc peer

switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : In Sync.
Peer-status           : Commit Success
Peer-error(s)        :
switch1#

```

次に、到達不能ステータスのピアを使用した、ピアスイッチでのスイッチプロファイルの同期の失敗例を示します。

```

switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : Not yet merged. pending-merge:1 received_merge:0
Peer-status           : Peer not reachable
Peer-error(s)        :
switch#

```

## スイッチ プロファイルバッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除

次に、スイッチプロファイルバッファの設定、バッファ移動、バッファ削除を設定する例を示します。

```

switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# vlan 101
switch(config-sync-sp-vlan)# ip igmp snooping querier 10.101.1.1
switch(config-sync-sp-vlan)# exit

```

```

switch(config-sync-sp)# mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp)# interface ethernet1/2
switch(config-sync-sp-if)# switchport mode trunk
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 101
switch(config-sync-sp-if)# exit
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1      vlan 101
1.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3      interface Ethernet1/2
3.1    switchport mode trunk
3.2    switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp)# buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1      interface Ethernet1/2
1.1    switchport mode trunk
1.2    switchport trunk allowed vlan 101
2      vlan 101
2.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
2      vlan 101
2.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete all
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
switch(config-sync-sp)#

```

## 設定のインポート

次に、インターフェイス コンフィギュレーションをインポートする例を示します。

```

switch# show running-config interface ethernet1/3

!Command: show running-config interface Ethernet1/3
!Time: Wed Aug 11 18:12:44 2010

version 5.0(2)N1(1)

interface Ethernet1/3
  switchport mode trunk
  switchport trunk allowed vlan 1-100

switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1

switch(config-sync-sp)# import interface Ethernet1/3
switch(config-sync-sp-import)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1      interface Ethernet1/3
1.1    switchport mode trunk
1.2    switchport trunk allowed vlan 1-100

```

```
switch(config-sync-sp-import)# verify
Verification Successful
switch(config-sync-sp-import)# commit
Commit Successful
switch(config-sync)#
```

次に、実行コンフィギュレーションにサポートされるコマンドをインポートする例を示します。

```
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# import running-config
switch(config-sync-sp-import)# show switch-profile sp buffer
```

```
-----
Seq-no  Command
-----
1       logging event link-status default
2       vlan 1
3       port-profile type ethernet pp1
3.1     bandwidth 5000
3.2     bandwidth inherit
3.3     speed 10000
3.4     state enabled
4       interface port-channel3
4.1     switchport mode trunk
4.2     vpc peer-link
4.3     spanning-tree port type network
5       interface port-channel30
5.1     switchport mode trunk
5.2     vpc 30
5.3     switchport trunk allowed vlan 2-10
6       interface port-channel31
6.1     switchport mode trunk
6.2     vpc 31
6.3     switchport trunk allowed vlan 11-20
7       interface port-channel101
7.1     switchport mode fex-fabric
7.2     fex associate 101
8       interface port-channel102
8.1     switchport mode fex-fabric
8.2     vpc 102
8.3     fex associate 102
9       interface port-channel103
9.1     switchport mode fex-fabric
9.2     vpc 103
9.3     fex associate 103
10      interface Ethernet1/1
11      interface Ethernet1/2
12      interface Ethernet1/3
13      interface Ethernet1/4
13.1    switchport mode trunk
13.2    channel-group 3
14      interface Ethernet1/5
14.1    switchport mode trunk
14.2    channel-group 3
15      interface Ethernet1/6
15.1    switchport mode trunk
15.2    channel-group 3
16      interface Ethernet1/7
16.1    switchport mode trunk
16.2    channel-group 3
17      interface Ethernet1/8
18      interface Ethernet1/9
18.1    switchport mode trunk
18.2    switchport trunk allowed vlan 11-20
18.3    channel-group 31 mode active
19      interface Ethernet1/10
19.1    switchport mode trunk
19.2    switchport trunk allowed vlan 11-20
19.3    channel-group 31 mode active
20      interface Ethernet1/11
21      interface Ethernet1/12
...

```

```

45      interface Ethernet2/4
45.1    fex associate 101
45.2    switchport mode fex-fabric
45.3    channel-group 101
46      interface Ethernet2/5
46.1    fex associate 101
46.2    switchport mode fex-fabric
46.3    channel-group 101
47      interface Ethernet2/6
47.1    fex associate 101
47.2    switchport mode fex-fabric
47.3    channel-group 101
48      interface Ethernet2/7
48.1    fex associate 101
48.2    switchport mode fex-fabric
48.3    channel-group 101
49      interface Ethernet2/8
49.1    fex associate 101
...
89      interface Ethernet100/1/32
90      interface Ethernet100/1/33
91      interface Ethernet100/1/34
92      interface Ethernet100/1/35
93      interface Ethernet100/1/36
...
105     interface Ethernet100/1/48
switch(config-sync-sp-import)#

```

次に、選択したサポートされているコマンドをインポートする例を示します。最初に、インポートしようとしているコンフィギュレーションを識別するため、ポート プロファイルの実行コンフィギュレーションを表示します。

```

switch# show running-config port-profile

!Command: show running-config port-profile
!Time: Thu Aug 12 12:09:11 2010

version 5.0(2)N1(1)
port-profile type ethernet ppl
  bandwidth 5000
  bandwidth inherit
  speed 10000
  state enabled

switch#

switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# import
switch(config-sync-sp-import)# port-profile type ethernet ppl
switch(config-sync-sp-import-if)# bandwidth 5000
switch(config-sync-sp-import-if)# bandwidth inherit
switch(config-sync-sp-import-if)# speed 10000
switch(config-sync-sp-import-if)# state enabled
switch(config-sync-sp-import-if)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       port-profile type ethernet ppl
1.1     bandwidth 5000
1.2     bandwidth inherit
1.3     speed 10000
1.4     state enabled

switch(config-sync-sp-import-if)# verify
Verification Successful
switch(config-sync-sp-import)# commit
Commit Successful
switch(config-sync)# show running-config switch-profile
switch-profile sp

```

```

sync-peers destination 10.193.194.52
port-profile type ethernet ppl
  bandwidth 5000
  bandwidth inherit
  speed 10000
  state enabled
switch(config-sync)#

```

## import コマンドを使用したサンプル移行

### ファブリック エクステンダ A-A トポロジでの Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1) の移行例

次に、ファブリック エクステンダ A-A トポロジで Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1) に移行するために使用するタスクを示します。タスクの詳細については、この章の該当する項を参照してください。

#### 手順

- 
- ステップ 1 設定が両方のスイッチで同じであることを確認します。
  - ステップ 2 両方のスイッチで、同じ名前を持つスイッチ プロファイルを設定します。
  - ステップ 3 両方のスイッチで **import running config** コマンドを入力します。
  - ステップ 4 **switch-profile name buffer** コマンドを入力し、すべての設定が両方のスイッチで正しくインポートされていることを確認します。
  - ステップ 5 バッファを編集して不要な設定を削除します。  
詳細については、[例：スイッチプロファイルバッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除](#)を参照してください。
  - ステップ 6 両方のスイッチで **commit** コマンドを入力します。
  - ステップ 7 両方のスイッチでピアスイッチを設定するには、**sync-peers destination IP-address** コマンドを入力します。
  - ステップ 8 両方のスイッチが同期されていることを確認するには、**switch-profile name status** コマンドを入力します。
- 

### ファブリックエクステンダのストレート型トポロジでのCiscoNX-OSRelease5.0(2)N1(1)の移行例

次に、ファブリック エクステンダのストレート型トポロジで Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1) に移行するために使用するタスクを示します。タスクの詳細については、この章の該当する項を参照してください。

## 手順

---

- ステップ 1** vPC ポートチャネルの設定が、両方のスイッチで同じであることを確認します。
- ステップ 2** 両方のスイッチで、同じ名前を持つスイッチ プロファイルを設定します。
- ステップ 3** 両方のスイッチのすべての vPC ポートチャネルについて、**import interface port-channel *x-y*, port-channel *z*** コマンドを入力します。
- ステップ 4** **show switch-profile *name* buffer** コマンドを入力し、すべての設定が両方のスイッチで正しくインポートされていることを確認します。
- ステップ 5** バッファを編集して不要な設定を削除します。  
詳細については、[例：スイッチプロファイルバッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除](#)を参照してください。
- ステップ 6** 両方のスイッチで **commit** コマンドを入力します。
- ステップ 7** 両方のスイッチでピアスイッチを設定するには、**sync-peers destination *IP-address*** コマンドを入力します。
- ステップ 8** 両方のスイッチが同期されていることを確認するには、**show switch-profile *name* status** コマンドを入力します。
-

